

ほほえみの会 2003年度 活動報告

「ほほえみの会」2003年度 活動記録
 会員 NO149 (110人)

			参加者
2003年	7月13日	第97回会合 2003年度総会	人
	8月10日	第98回会合	3人
	9月14日	第99回会合	4人
	10月12日	第100回会合 のぞみの会静岡支部と合同開催	31人
	11月9日	第101回会合	7人
	12月14日	第102回会合	5人
2004年	1月11日	第103回会合	9人
	2月8日	第104回会合	12人
	3月14日	第105回会合	11人
	4月11日	第106回会合	8人
	5月9日	第8回小児がん院内親の会連絡会 東海大付属病	
	5月9日	第107回会合	8人
	6月13日	第108回会合	6人
	7月11日	第109回会合 2004年度総会	

2003年度会計報告

収入	
繰越金	245,389
会費	145,000
寄付	28,000
預金利息	8
のぞみの会	5,000
	423,397

支出	
会議費	22,650
通信費	105,600
文具費	1,785
交通費	26,700
謝礼	30,000
	186,735

収入金額 423,397

支出金額	186,735
残高	236,662

上記の通り報告致します
2003年7月13日

会計 小嶋 隆

2003年7月25日

静岡県立こども病院
院長 横田 通夫 様

静岡県立こども病院 血液腫瘍科親の会
「ほほえみの会」 代表
静岡県地域医療支援連携事業運営委員会 委員
池田恵一

病棟保母さん配置のお願い

拝啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。日頃は「ほほえみの会」の活動にご協力、ご支援いただき大変感謝をいたしております。

さてこの春、新病棟完成に伴い北5(B1)病棟の保母さんが異動され不在となりました。限られた人員の中で保母さんはさらに必要な病棟に移られたと聞きました。しかし、そのためにせっかく明るくきれいな新病棟に移ったにもかかわらず入院している子供たちの表情は暗くなってしまったと会員の母親たちは嘆いています。

是非、病棟への保母さんの設置をお願いいたします。

難病と闘う子供たちは辛い治療に耐え、家族とも離れ一人病棟でストレスの多い生活を余儀なくされています。そうした中で保母さんは痛いことはしない、子供たちにとって唯一安心できる存在です。医療者には言えない事も保母さんには言えることもあり、ドクター、ナースとは違う役割があります。毎日一人一人の体調を把握してくれる中で、遊び相手になってくれ、食事の面倒を見てくれ、躰にも気を配ってくれる。また、病棟内の飾りを作ったり、食堂内での小さな運動会、夏祭りなどのイベントはストレスの多い子供たちにとって大きな喜びであり、治療への前向きな気持ちが持てる大きな要素です。

現在、ボランティアの方が面倒を見てくれ、またナースに保育担当の方も決めていただいておりますが、やはり専任の保母さんに毎日いて頂きたいというのが親の切実な思いです。

アメリカの病院では患児の精神的ケアには力を入れており、チャイルドライフスペシャリストをドクター、ナースと同格に位置付けているとも伺います。是非、日本で有数の医療を誇る静岡県立こども病院で、国内で先駆けてそうした取り組みを実践していただければ幸いです。

諸般ご事情があるとは存じますが、何卒保母さん設置の実現ができますよう重ねてお願い申し上げます。

敬具

2004年2月27日

静岡県 病院局
局長 岡野 敦 様

静岡県立こども病院 血液腫瘍科親の会
「ほほえみの会」 代表
静岡県地域医療支援連携事業運営委員会 委員
池田恵一

病棟保育士配置のお願い

拝啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

私ども「ほほえみの会」は静岡県立こども病院で小児がんの治療を受ける子供の親の会です。日頃は病院を通じまして「ほほえみの会」の活動にご協力、ご支援いただき大変感謝をいたしております。

さて昨年、新病棟完成に伴い北5(B1)病棟の保育士さんが異動され不在となりました。限られた人員の中で保育士さんはさらに必要な病棟に移られたと聞きました。しかし、そのためにせつかく明るくきれいな新病棟に移ったにもかかわらず入院している子供たちの表情は暗くなってしまったと会員の母親たちは嘆いています。

是非、病棟への保育士さんの設置をお願いいたします。

難病と闘う子供たちは辛い治療に耐え、家族とも離れ一人病棟でストレスの多い生活を余儀なくされています。そうした中で、保母さんは痛いことはしない、子供たちにとって唯一安心できる存在です。医療者には言えない事も保母さんには言えることもあり、ドクター、ナースとは違う役割があります。毎日一人一人の体調を把握してくれる中で、遊び相手になってくれ、食事の面倒を見てくれ、躰にも気を配ってくれる。また、病棟内の飾りを作ったり、食堂内での小さな運動会、夏祭りなどのイベントはストレスの多い子供たちにとって大きな喜びであり、治療への前向きな気持ちが持てる大きな要素です。

現在、ボランティアの方が面倒を見てくれ、またナースに保育担当の方も決めていただいておりますが、やはり専任の保母さんに毎日いて頂きたいというのが親の切実な思いです。

アメリカの病院では患児の精神的ケアには力を入れており、チャイルドライフスペシャリストをドクター、ナースと同格に位置付けているとも伺います。是非、日本で有数の医療を誇る静岡県立こども病院で、国内で先駆けてそうした取り組みを実践していただければ幸いです。

諸般ご事情があるとは存じますが、何卒保育士さん設置の実現ができますよう重ねてお願い申し上げます。

敬具

県がんセンター小児科設置要望意見

静岡県立こども病院 血液腫瘍科 親の会
「ほほえみの会」

これから少子化を迎えようという時代に日本一を誇る「がんセンター」に小児科がないのはおかしい。
小児ガンにかかった子どもは治癒したあとも様々な病気になることが多く継続してみてもらう必要がある。そのためにも小児科（こども病院）だけでなく様々な科が総合的に必要となる。
骨髄移植で無菌室に入る子供と親の精神的プレッシャーは体験したものでないとわからない大変なものがある。せめて病院は近くにあっていつでも直ぐに行ける状態であって欲しい。
いま臍帯血を採ろうとしても東部の病院では出来ず、ガンの兄弟がいるために採りたくても採れないという人がまわりに多くいる。
陽子線治療は小児ガンに効果があるというのに何故小児科がないのですか。
県の子どものガンに対する関心の低さに絶望する。
病棟は大人と子どもでは違い、たとえ小児科が単独で設置されなくても小児用の病棟は是非最初から作っておいて欲しい。

小児ガンについてはこども病院で高度医療を目指すというが、とても今のこども病院が満足できる状態ではない。

- ・ 20年前に建てられた病院は今の医療の進歩について行けず、骨髄移植治療が当たり前になっている今、無菌室が一つというのはどうしようもない。タイミングが重要な移植では今までに無菌室が空いていないがために治療が出来ず命を落としている人が多くいる。
- ・ 昨年末から病棟内での院内感染が広がっており、既に二人が亡くなっている。遺族は県に対して訴訟も考えていたが、本来の病気以外で何故命を落とさなければならぬのか。徹底的に説明して欲しい。
今のところ原因ははっきりしていないが、B1病棟に白血球が減り抵抗力のない血液腫瘍科の患者以外に腎臓や神経科の患者がいるのも問題ではないのか。

県がんセンターは誰のための病院なのか。

国立がんセンターとは性格が違おうだろう。国立をしのぐほどの日本一、世界一を目指す事が本当に県民のためになるのだろうか。県のがんセンターは県民が診察を受けやすい事が大事で、ガン研究を極めるところではないのではないのか。国立がんセンターや他の研究機関とのネットワーク化を図ることが出来るのなら県民がかかりやすい、県民本位の病院体制にすべきだ。

病院の名称を「がんセンター」というのは止めて欲しい。

本人や周りに対して病名を伝えておらず、たとえ小児科が出来ても診察には行けない。

こども病院の血液腫瘍科も血液科で良いのではないのか。